

生き生きレポート

発行：神奈川ネットワーク運動・平塚

〒254-0033 平塚市老松町 16-3-103

発行責任：佐藤秀子

<http://hiratsuka.kgnet.gr.jp/>

Tel/Fax 0463-22-7732

調べています、子育て支援策の自治体間格差

神奈川ネットワーク運動・平塚は、地域で安心して子育て・子育てするための制度提案を行ってきました。

今回、神奈川ネットワーク運動子ども・若者プロジェクトによる県内自治体調査の中で、改めて平塚市の現状と課題の把握を行っています。

本レポートでは、現在市が実施している事業の内2つの事業を取り上げます。

◆ファミリーサポートセンター事業

ファミリーサポートセンター事業は育児の援助を受けたい人（依頼会員）と提供したい人（支援会員）との相互援助活動に関する連絡や調整を行う事業で、平塚市では平塚市社会福祉協議会に事業を委託しています。保育施設の保育開始前や保育終了後の子どもの預かり、保育施設までの送迎、放課後等の預かりの他、緊急時等の預かりなど多様なニーズに対応しており、子育て支援サービスの一つとして大きな役割を果たしています。下表に示したように平塚の活動件数は3年間で大幅に減少しています。平塚市よりも人口の少ない茅ヶ崎市の2015年度件数は9,105件（支援会員約300人、依頼会員約3千人）、厚木市でも約

平塚市ファミリーサポートセンター事業

	依頼会員数	支援会員数	活動件数
2013年度	979	284	3,377
2014年度	1,036	284	2,904
2015年度	1,120	272	2,045

4,400件の実績があり、自治体間で大きな違いがあります。平塚市では対象年齢は9才までですが県内では小学6年生までを対象としている自治体が多くあります。平塚市の急激な件数減少

や全体件数の低さについて分析し、政策提案につなげていきます。

◆就学援助制度

経済的な理由により就学困難な小中学校児童生徒の保護者に対し必要な支援（学用品、通学用品、校外活動費等）をする制度です。平塚市の全児童生徒に対する就学援助率は2015年度は約13%、26%を超える大和市の半分ですが、経済的に厳しい家庭が大和市の半分という訳ではありません。援助対象を判断する収入の認定基準が自治体により違うことが一つの要因と考えます。調査を進め制度のあり方について提案していきます。

行ってきました！横内子ども食堂



子どもの貧困が大きな社会問題になっている中、平塚市横内で今年1月から実施されている子ども食堂を訪問しました。同地区では以前から横内プロジェクトによる学習支援活動が行われていますが、子ども食堂はその活動から見えたニーズに応えたものとのこと。

ポリビア料理店を借り現在月2回（第2、第4月曜日17時～19時15分）実施されており、1回に30人ほどの参加者があります。人と人との繋がりをつくる場としての活動が期待されます。

